

南部の火祭り縁起

火祭りの由来

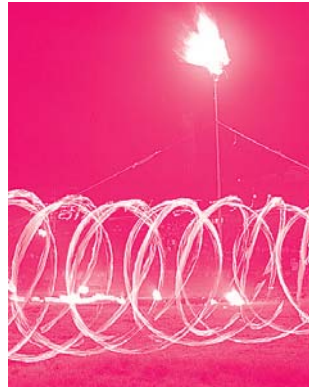
「南部の火祭り」の起源は定かではないが、江戸時代の初期に角倉了以によって富士川の改修が行われて以後、舟運が盛んになった元禄時代頃からであろうと推定され、仏教の盂蘭盆会と習合して、盆の送り火や川施餓鬼として受け継がれてきたものと思われる。かつては、富士川下流全域で行われた行事であったが、いまは、南部の火祭りだけが規模を拡大して伝承されているのみである。

百八たい(ひゃくはったい) 午後8時点火

富士川の両岸約2kmにある百八つの円錐形のたき木の山に、午後8時、一斉点火されると、そのかがり火は、近くの山や空も真赤に染めて、炎は川面に映り、広い川原も火の海の饗宴に包まれていく。

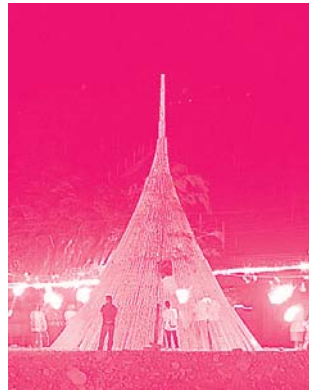
投松明(なげたいまつ) 午後6時40分開始

10数mの竿先にのせた籠をめがけ、火をつけた松明を片手でグルグル回して投げ入れる伝統行事で、松明の飛び交うさまは、真暗な夜空を華麗に舞う精霊のようにも見え、見物客は幽玄の世界に迷い込んだような錯覚にとらわれる。



灯籠流し(とうろうながし) 午後7時30分開始

僧侶の読経に合わせ灯籠流しが行われ、ユラユラと富士川の川面に揺れる精霊舟の灯りは今、人々に万感の想いを込めて流れていく。この「流し灯ろう」は一般にも販売している。



大松明(おおたいまつ) 午後7時45時点火

町内外の各寺院から集めた塔婆を積み重ねて大松明に仕上げたもので、僧侶の読経に包まれ、約3万本の塔婆に点火されると、夜の川原を燦々と照らす塔婆の炎と低く流れる読経が闇の川辺に幽玄な響きをもたらしていく。



流し灯ろう

当日販売のみ 1基 1,000円



南部町火祭り実行委員会
(役場産業振興課内)
TEL 0556-64-3111

2017

南部火祭りの

■8月15日(火)午後3時~ ※荒天時順延

■富士川河川敷南部橋上下流

※ 安全確保のため、会場内及び周辺での小型無人機(ドローン等)の使用は禁止します。

《催物案内》

投げたいまつ疑似体験
(中央会場のみ、午後3時~午後6時)
ステージショー(午後3時~午後6時)
開会宣言(午後6時30分)
南部火祭り太鼓(午後6時40分)
投げたいまつ開始(午後6時40分)

灯籠流し開始(午後7時30分)
大たいまつ点火(午後7時45分)
百八たい点火(午後8時00分)
南部火祭り太鼓(午後8時00分)
花火大会(午後8時10分~午後8時50分)
盆踊り(午後8時20分)

救急依頼は
119番へ
お願いします。

主催：南部町火祭り実行委員会

協力：国土交通省関東地方整備局甲府河川国道事務所、山梨県南部町 お問合せ：南部町火祭り実行委員会(役場産業振興課内) ☎0556-64-3111(代)

題字：金澤翔子